

## 「大型洪水ハザード紙芝居（1.2m×0.85m）」

### 制作方法

- 1 登場する動物たちは、全て日進市の里山に生息する動物で、出てくる地名や川の名前も日進市に実在するものを使い、子どもたちが身近に実感できるようなキャラクターを決める。
- 2 洪水をテーマに、洪水の恐ろしさや避難の大切さを描いた物語を考える。
- 3 1.2m×0.85mの段ボールにビニールを貼る。
- 4 紙に下絵を描く。
- 5 みんなで色を塗る。

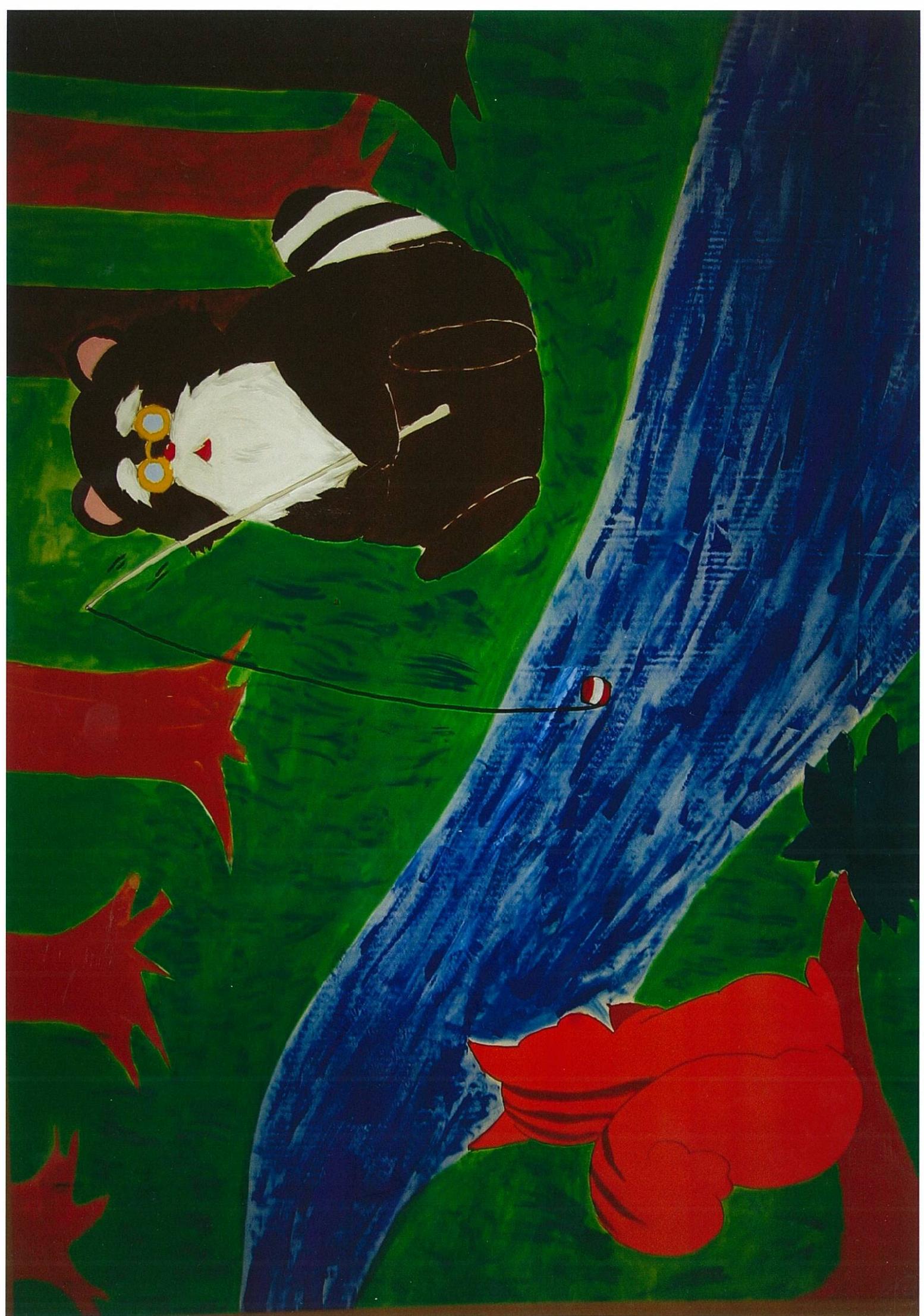
紙芝居制作

平成 22 年度

国際コミュニケーションコース

3年1組







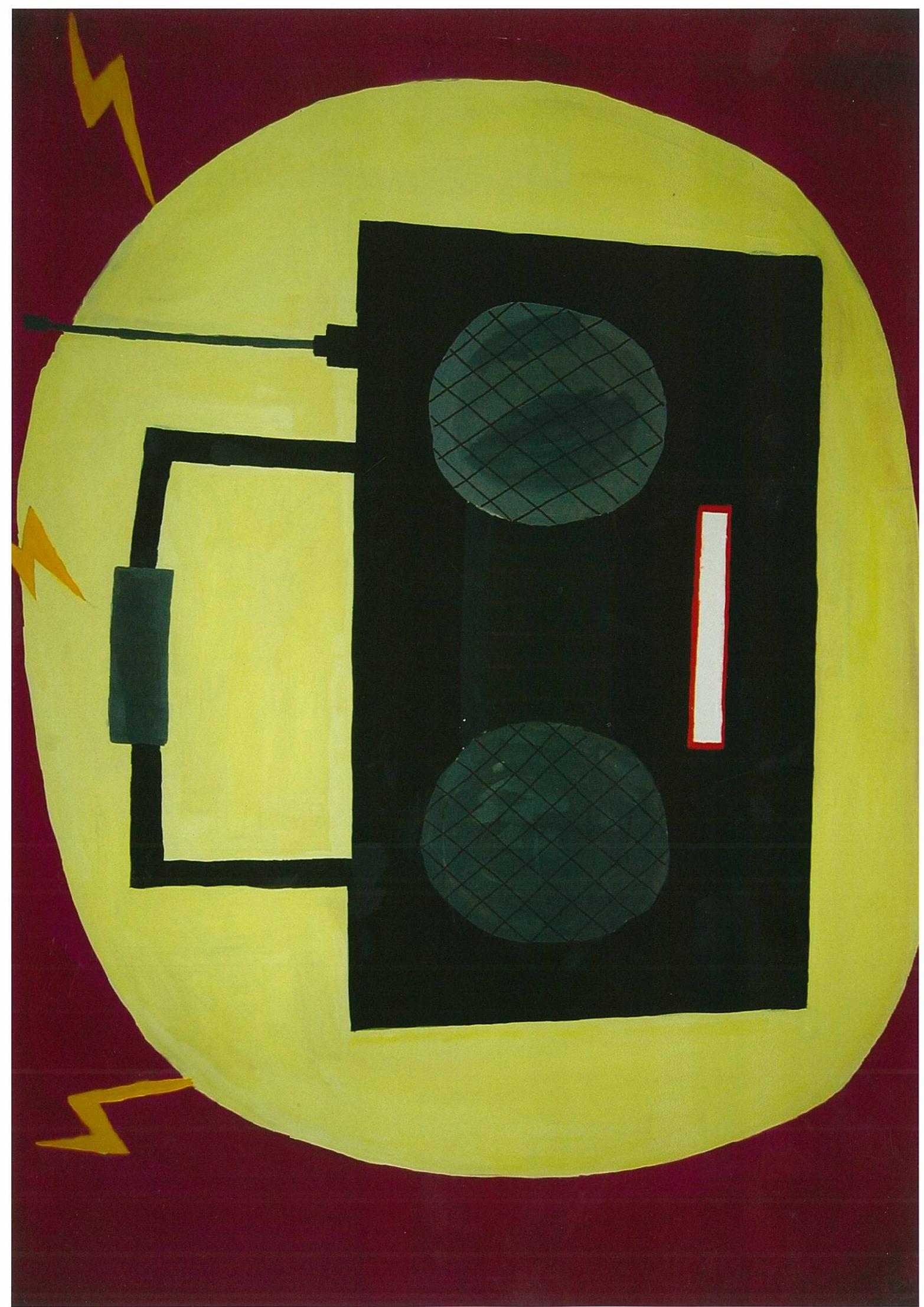


















		負けないで！クル子
1	語り手	負けないで！クル子
2	たぬきのたぬー	「大きな魚が釣れないかのお？」
3	たぬきのたぬー	「ここにシマリスのクル子ちゃんが来ました。
	語り手	「木の実が落ちていなか河原を探すわ。」
	たぬきのたぬー	私は大好き
	語り手	「ねえ、クル子ちゃん、なんかおかしくないかい？なんだろう、
	たぬきのたぬー	ラジオをつけてみると、台風が近づいてきて放送していました。
	語り手	「なんだって、台風がくるって？」
	たぬきのたぬー	「たぬーは遠くのほうをみました。
	語り手	「これは大変じや！台風がくるぞい！！」
	たぬきのたぬー	「森のむこうを見てごらん、雲が真っ黒じや。
	語り手	川の水もどんどん
	たぬきのたぬー	多くなつてゐるよ。台風がくるってニュースできいたんじや
	語り手	いへんじや！！！」
	たぬきのたぬー	「えつ？ そつかな？ そやは思わないけど。」
	語り手	「すぐに避難しなきやいかん！」
	たぬきのたぬー	たぬーは、森の仲間たちを集めて近くの御岳山へ行くように話
	語り手	しました。
	たぬきのたぬー	「なんで御岳山へ行くの？」
	語り手	どうさぎのうさうさがいいました。
	たぬきのたぬー	「もうすぐ、台風が来て、大雨が降り、岩崎川の堤防が切れる
	語り手	になつてゐるほらあなたがある御岳山に登るんじや。高い所にい
	たぬきのたぬー	ほうが流されないし、安全なんじやよ。」
	語り手	「たぬーさんつて、慌て者ね。雨なんか降つていないわよ。」
	たぬきのたぬー	「僕はたぬーさんのいうとおりかもしれない。僕の木のお家もいつ
	語り手	とかえるのピヨン吉がいいました。
	たぬきのたぬー	「たぬーさんのいうとおりかもしれない。僕の木のお家もいつ
	語り手	ど違つてゆらゆらしてたから。」
	たぬきのたぬー	さるさーさんも言いました。
	語り手	「私もいくわ。」
	たぬきのたぬー	「ねずみのねずがいいました。」
	語り手	「僕もいくよ。」
	たぬきのたぬー	「ぶたのブーインがいいました。」
	語り手	「みんながいくなら、しようがないか。。。」
	たぬきのたぬー	「もしかたなく、ついていくことにしました。」

			4
たぬ ー	語り手 たぬ ー	「さるさーさん、急いで懐中電灯を持つてきてくれ。うさうさ ちやんピヨン吉くんブリヴァインくんは、バケツを急いで持つて くるんじや。飲み水を入れるために必要なんじやよ。」	
みんなは、たぬーに言われたものを大急ぎで持つてきました。 わしはこのラジオを持っていくわい。さあ、みんな出発だ！			
早くしないと集中豪雨みたいな大雨になりそうじや。 みんなは急いで、御岳山のほらあなをめざしました。			
5	うさうさ たぬ ー	歩きながら、うさうさちやんがいました。	
たぬーさん、さつき言つていた集中豪雨ってなあに？			
「集中豪雨はな。狭い地域で短時間にたくさん雨が降ること を言うんじやよ。台風などと違つて突然起ころから、予想しに 慣れたり、土砂崩れが起こつたりして大変なことになるんじやよ。でもな、集中豪雨がくると、川の水があふ れたり、土砂崩れが起こつたりして大変なことになるんじやよ。」			
今は台風だけど大雨が降りそうだから気をつけたほうがいいん じや。			
わかつた！じやあ急いだ方がいいね！			
6	語り手 クル子 ー	一方、リスのクル子ちゃんは、みんなの一一番後から、しぶしぶ 歩いていましたが、途中で、かわいいマグカップを見つ つけました。	
まあ、かわいい。			
クル子ちゃんは、すっかりマグカップが気に入り、マグカップ の中に入ったり出たりして遊んでいました。			
あら、みんなの姿が見えなくなつたわ。どうしよう。 この中に入つていれば、御岳山にいかなくても大丈夫だわ。			
た。クル子ちゃんはマグカップの中で、遊び疲れて寝てしまいま した。			

語り手	たぬーたぬー	さるさーさるさー	うさうさーうさうさー	みんな	「よいしょ。よいしょ。」	「急げ。急げ。」	みんなで力を合わせて、穴の入口を大きな石でふさぎ、風や雨	がはいってこないようになります。	これでほらあなたには、風も雨も入つできません。
語り手	たぬー	さるさー	たぬー	「あれっ？ クル子ちゃんがいないよ！」	「僕が、クル子ちゃんを捜しに行ってくるよ！」	「さるさーさん、いちちやダメじや。」	「なぜ？ 行っちゃだめなの？ たぬーさんはクル子ちゃんが心配	じやないの？」	「わしだって心配じやよ。でも、この台風の中、外に出ると、
語り手	たぬー	さるさー	たぬー	風に飛ばされたり、もし、川が氾濫（はんらん）したら、川の	水に流れられたり、さるさーさんも危ないんじや。こういう時は、	穴の中でじつとしていなければいけないんじやよ。」	さるさーさんは、外に出るのをやめました。		
語り手	たぬー	さるさー	たぬー	「そうじや。わしの持ってきたラジオをつけよう。」	「ラジオでは、台風が来て、近くの川の堤防が切れて、あたり一	画水につかっていると放送していました。	「大変なことになつていい。」	「僕たちの森が水につかっているみたいだ。」	わ。「たぬーさんの言ったとおり早めにここに移動してよかつた
語り手	たぬー	さるさー	たぬー	「たぬーさん、ありがとう。助かつたよ。」	「クル子ちゃん、今頃どこにいるんだろう？」	「きっとクル子ちゃんのことだから、大丈夫だよ。」			

1 2	語り手 全員	1 1	語り手 クル子	1 0	語り手 クル子
たぬ く 全員	たぬ ピヨン吉 さるさ ー ブ ー 語り手 クル子	ピみんなど さるさ ー ブ ー 語り手 クル子	さるさ ー ブ ー 語り手 クル子	さるさ ー ブ ー 語り手 クル子	さるさ ー ブ ー 語り手 クル子
おしま い	おしま い	おしま い	おしま い	おしま い	おしま い